

浦幌町統太地区における酪農牧場の新設について

株式会社ノベルズ（十勝管内上士幌町、延與雄一郎代表取締役社長）を中核企業に肉牛、酪農、食品の3事業を展開するノベルズグループは、十勝管内浦幌町の統太地区における酪農牧場の新設準備を進めています。

また、当該酪農牧場の新設に関して、本日12月26日に一部報道がありましたが、現在、あくまでも着工前の事前準備の段階であることから、今後、計画及び構想の内容が変更になる可能性があります。

乳用牛2,400頭、バイオガスプラント併設の新酪農牧場「浦幌第一牧場」

グループ会社の「株式会社浦幌デーリーファーム」（十勝管内浦幌町、延與雄一郎代表取締役社長）は、浦幌町統太地区の約15haに、約2,400頭の乳用牛を飼養でき、発電出力500kWのバイオガスプラントを併設したグループ2番目の酪農牧場「浦幌第一牧場」を2018年春から建設する計画です。乳用牛の受け入れ準備が整い次第、継続的に飼養頭数を増やし、2019年末までにスタッフ約50人体制のフル生産に入る計画です。

「浦幌第一牧場」と「浦幌第二牧場」

酪農事業において、「浦幌第一牧場」は2カ所目の酪農牧場となりますが、さらにグループ3番目となる酪農牧場「浦幌第二牧場」を、同じく浦幌町内において建設する構想です。2019年春をめどに着工したい考えで、飼養頭数やスタッフ体制は、「浦幌第一牧場」と同程度で、やはりバイオスプラントの併設型とする構想です。

これにより、株式会社ノベルズデーリーファーム（十勝管内清水町、延與雄一郎代表取締役社長）が運営している十勝管内清水町の酪農牧場、「浦幌第一牧場」、「浦幌第二牧場」の3牧場体制として、2020年に生乳出荷8万5千tを目指します。2017年は清水の拡大に注力して、2018年以降は、「浦幌第一牧場」も並行して整備する計画です。

なお、2017年1月に、十勝管内幕別町の駒島地区で約26haの用地に酪農牧場を建設し、2017年内にも乳用牛の受け入れを開始する計画を公表しましたが、当該用地において牧場運営に必要な用水確保のめどが立たず、新たに別の用地を確保する必要があり、「浦幌第一牧場」の建設を先行させた経緯があります。

幕別町内と浦幌町内を一体とした「耕畜連携」の推進

ノベルズグループの酪農事業では、酪農牧場から生まれる畜産系バイオマスを原料とするバイオガスプラントで生産する有機液肥の消化液を地域の畑作農家に提供し、乳用牛の飼料に好適なデントコーンの栽培も委託する「耕畜連携」によって、互いに収益性の向上を図る「地域共生」の循環型農業を推進しています。

「浦幌第一牧場」「浦幌第二牧場」においても「耕畜連携」を推進し、浦幌、幕別の両町の畑作農家と連携する方針です。幕別町駒島地区に消化液の貯留施設並びに収穫後のデントコーンを集積する施設を建設する構想です。

また、ノベルズグループでは、浦幌町内および幕別町内における「耕畜連携」の取り組みを推進する目的

2017年12月26日

で、新会社を立ち上げ、同社の業務内容を（ア）「消化液散布、デントコーン収穫等の農作業を請け負うコントラクター事業」、（イ）「飼料の調達及び混合飼料（TMR）の供給事業」とする計画です。

また、幕別町内における酪農牧場の新設は、駒島地区の当該用地を候補から除外するものの、町内における新たな用地の確保を目指し、幕別町と連携しながら、今後も準備を継続します。

以上